

【大和海軍航空隊大和基地（通称「柳本飛行場」）跡説明板】に関する共同通信社インタビュー】

（記者）

戦後 80 年の、連載企画みたいなのが色々した中でありまして、そのうちの一つとして日本の加害の歴史についてちょっと振り返るといふかそこをフォーカスして特集するという連載記事がありまして。その中に私も参加さしいていました。そこで色々なトピックがある中で朝鮮人の強制労働の話っていう部分があって。その群馬の森の話だとか各地全国各地の床を取り上げる中の一つとして、ちょっと一応ご説明板の撤去という動きがあったというところで、一つも取り上げさせていただこうかなというところで、取材させていただくことになりました。

ですね、早速ちょっと質問に参りたいんですけれども事前にお送りしていただいた撤去を考える会への回答の方も読ましていただいた上で。再度何度も同じこと聞いて申し訳ないんですけれども、聞きしたいんですけれども、まず柳本飛行場に関わらずですね全国各地で明らかになっている朝鮮人であったり、中国人の強制的な動員の歴史といふか、そういう労働者の歴史について、個人として

のまず市長個人としての見解をお伺いしたいなと思います。

(並河)

まずお断りしておきたいのは、今日も天理市長である並河健ということで、インタビューいただいていると思うんですね。なので、どのように前置きをしていただいたとしても、完全なる個人的見解という形で応えるというのは難しいんだと思うんです。

それは●●さんがどこかで取材を受けられたとして、共同通信さんの●●記者というふうになった場合には、個人の見解っていうふうになるか。やはり共同通信さんの記者としての、と言うところは、これはどうしてもセットになると思いますから、その点はぜひご理解をいただきたいと思います。

冒頭強調して申し上げたいのは、我々の(※市HPで公開している)回答の方でも書かしていただきましたけれども、戦争であったり、あるいは武力の行使であったり、武力の威嚇であったり、あるいはその植民地支配をはじめとして、ある民族が他の民族を抑圧したりですね、支配するということは、私は最大の人権侵害だというふうに思っていて、今国際社会非常に難しい情勢もありますけれど

も、決して繰り返されることであってはいけないというふうに思っています。

我が国の対外政策を初めとして、近代史の中で、特に朝鮮半島出身の皆さんを初め本来であれば、故郷で幸福に人生を送られるべきであった皆さん、少なからぬ方々がそれと異なる人生を歩まざるを得なかったという歴史については、私達日本人はしっかりと反省をして、これが繰り返されることのないように努めなければならない。一方ですね、今も、あの●●さん自身も言葉を結構選ばれてお話をしたのかなというふうに思うんですけども。例えば朝鮮半島出身の労働者の皆さんの渡航の具体的な形態であったり、その強制性がどういったものであったのかというところについては、相当まだ議論がわかれているところだというふうに思っています。

我々が一旦撤去して一時保存している柳本飛行場の掲示板については、明確に「強制連行」という言葉が使われているんですけども、これはあの河野談話においてもですね、そういった文言ではないと。強制性の言及というところはあって、そして歴代内閣はそれを継承しているということでもありますけども、回答文で書かせていただいた通り、令和3年4月ですね、これは質問主意書に対する政府の答弁なんで閣議決定もされたものですが、移入の経緯は様々で、これら

の人々について「強制連行された、もしくは強制的に連行された、また変更されたと一括りに表現されることは適切でない」というふうに政府としては述べているというふうに、研究者の中でもいろんな議論があるし、また政府からもこういった見解が示されている状況において、我々基礎自治体という市民サービスに一番近い住民サービスを普段担わしていただいている立場なんですけれども、独自にですね、検証を行って、政府であつたりの認識を超えるような何か示せる責任を持って話せる状況かということ、これは極めて困難であると。

ゆえに専門家の議論を深めていただいて、またその政府においても今後どういった認識が示されるかというところが非常に大事なわけでありまして、我々としてはそれを見守りたいということだと思っています。

(記者)

その中でですね。天理市では 2014 年に説明板を一時撤去したというようなことがあったんですけれども。改めてときのことについてお伺いしたいんですけれども。始まりというか「考える会」の方の取材もしておりますですね。そのところによると、2014 年頃から説明板の内容に関する抗議のメールや電話が来たというところから始まっているというふうに聞いてるんですけれども、改めてその経緯のところをお伺いしてもよろしいでしょうか？

(並河)

私が就任をしたのが2013年の10月その半年ぐらい前だったんですけども、年度の変わり目ぐらいにおっしゃるようになりますね、その説明板とは認識を違う意見を持ってらっしゃる方々から電話であったりとか、メールが続いたというふうに認識をしています。

私自身が直接対応したわけではないんですけども。そういった中ではですね、このままの状態であれば、街宣活動をするとか、そういった言動もあったというふうに聞いております。もちろん、我々は、そういう威圧的な言動に屈するということはもちろんないわけではありますが。率直にですね、その時点まで私も掲示板について認識ができていなかったの、直ちにこういった掲示板なのかということを確認した際に、本市の教育委員会の職員も含めて、あまりその存在をきちんと認識してなかった。「天理市」と「天理市教育委員会」とクレジットが入っているの、これは市が設置したものなのかということを確認をしたんですけど、その時点では誰も答えられずに、結局予算書を引っ張ってみると、昔実際に予算をつけて、うちが設置したものであるということが、分かったような状態です。

それで文言を見てまいりますと、先ほど私が申し上げたように、そこで使われている「強制連行」というような文言については、私も元々外務省で勤務していたことがあるんですけども、この談話を初め政府が公式的に示しているものよりは、相当超えた表現であるということから、先ほどお示したようにですね、基礎自治体としての天理市、天理市教育委員会が責任を持って出せる文言かという非常に難しいということで、これはやはり専門家の検証そして国としての考え方、もう少し進展していただく必要があるということで一時撤去保管という形になったわけです。

その言葉尻の問題だけか、っていうふうに言われることというのもあるんですけども。これ●●さん説明版の文言ってご覧にはなってると思うんですけども。例えばですね、証言していますということで、証言記録のようなものが例示として出てきていますね。

その中で「寝ているときに急に人が入ってきて、連れて行かれた」という言葉があります。ご存知ですか。はい。寝ているときに急に人が入ってきたというのが一体誰ですか？

「誰が入ってきてます」と文言だけではちょっとわからない。つまり日本軍の、これが関係であるのか、あるいは当時の朝鮮総督府の役人であるのか、あるいはその労働者を確保する、そのあっせん業者のような方々だったのかっていうような。誰が果たして急に入ってきたのかということについても、ここでは示されていないんですね。

例えば朝日新聞さんが証言記録っていうところを巡って、吉田証言っていうのが一つ大きな議論になってですね、記事を撤回されるっていうことがあったと思うんですけれども。証言記録であったり、この歴史の研究のときにはやはりそういうところはきちんと検証されなければならない。

あの当時の朝日新聞さんが示されている見解の中でも、研究者の中でも何をもって「強制連行」にするのかっていうことは、相当幅があるんです。だから狭義で直接的な日本の官憲が関与したものって捉える方もいれば、強制性が一定程度あれば、もうそれは広くそうなんだっていうところまで、これは同じ言葉でも使う人によって相当開きがあるわけなんですけれども。やはり国家的な責任であったりとか、あるいはその日韓関係に与える影響ということからすると、これ

が果たして誰だったのかっていうことは非常に重要なポイントになってくるんです。

だからそれが明記されておらず、読み手によって相当ですね、これイメージしてしまう抽象的な、予断が入る余地が大きいというのは、これは歴史研究の中で非常に難しいポイントになります。しかもそれが「強制連行」という言葉に加わっている。

あるいはですね、「その後、貨物列車に乗せられて着いたのが柳本だった」っていう言葉もあったと思うんですけども、この貨物列車ということによってですね、客車では少なくともなかったっていうことは書いてあると思うんですね。

ただ例えばこれをですね、ヨーロッパだったりに持って行って、あるいは国際会議なんかで日本の行動についてみんなで議論するっていうような場になった時に、おそらく例で他に類推されるのは、ホロコーストの中で絶滅収容所に貨物列車で運ばれるようなシーンです。そういった時には、それこそ食料も水も全く与えられない中で、寒さであったり暑いような劣悪な環境、極めて非人道的な状況の中で、相当移送中に亡くなられた方がいるっていうようなことも、これは相当

研究の中でも明らかになってるわけなんです。これにおいてもです。そういうことを類推が十分されるんですけども、どのくらいですね、非人道的な状況だったのかっていうようなことも全く書いていないと、そういったところからすると、これうちが公式な「天理市」「天理市教育委員会」というクレジットをつけて掲示するということは、やっぱりその文言について批判的立場から聞いてこられる方についても、我々が責任を持ってこれ証明していかないといけないわけですね。

ただ、●●さんも今これ取材されてですね、実際に団体の方等から聞かれたと思うんですけども。なかなか今私がお質問したようなことについても、ぱっと出てくるって難しいと思うんですよね。だからそういう中で、これをやはり表現の自由の中で、それぞれの研究されている団体が示されるということについては、私は、尊重されなければならない、お互いに研究されている方々同士の歴史認識を巡ってですね、議論は積極的にやっていただければいいというふうに思うんです。

ただそのことと、やはり自治体とか教育委員会が公式的に見解を示すっていうこととは、意味合いが異なってくると。しかもですね、今、（※韓国の）尹政権

が一旦罷免をされる形になって、日韓関係が非常に流動的なタイミングであります。やはりこの歴史を巡る認識というような日韓関係も非常に影響を与える問題でありますから、そこにおいてですね、自分たちがしっかりと検証もできない部分について、国際的な、やはり問題を引き起こしてしまうというのは、我々はこれは責任のある行動ではないというふうに思っている次第です。

(記者) さっき撤去の経緯の中で、街宣活動するみたいなことも電話であったみたいな話があったと思うんですけども。その具体的に抗議とかがあった相手方っていうのは何か、自分たちの名前を名乗るようなというか、団体名を名乗った上での抗議だったとか。その辺ってのは。詳細には。

(並河)

そこはですね全くもう重要なポイントではないです。よくですね、一部の主張に我々が屈した、我々がそれに同調した、そちらの部分を、要は、(※説明板設置のために) 活動されていた皆さんよりも優先したみたいな言われ方をするんですけども。全く我々としては、価値中立的な立場であって、どちらということではないと。

ただ、それで指摘があったことをきっかけに、ちょっとそれまで認識が十分持っていなかったものを、きちんと確認をしてみたところ、公式見解として出せる状況としては難しいなという判断に至ったということなんで。

仮に、これが我々としてですね、しっかりやるべきことである、例えば我々今ウクライナの皆さんの支援なんかっていうのも、避難民の受け入れなんかをやっております、こういったロシアについてですね、どういう立場かとか。平和を大事にするべきだみたいなことがあれば、これはどんな抗議活動を受けたとしても毅然として立ち向かっていくということですね。

ただそれは、自分たちの意見としてしっかりこういう根拠に基づいてこう考えたからっていうふうに言えるから毅然と対応できるということであって。だから、どんなふうなことを言ってきたかってのは、これきっかけでしかありませんので、全く重要なポイントではないと思っています。

もちろん屈したわけではないっていうところも、先ほどあったと思うんですけど、脅迫めいたような内容もあったというふうに聞いてるっていうことなんです。当時、言動としては街宣活動を辞さないというようなニュアンスであったというふうには聞きましたけれども。そこについて、正確な何か録音したものだったりとか、文書が残っているわけではありません。

(記者)

それですね。私もちょっと1月に「考える会」主催のフィールドワークに参加しましてですね。そこには結構多くの大学生だったり若い同じ国と同じぐらいの世代の方も参加しててですね、いろんな意見が出たんですけども例えば強制連行だったかどうかという言葉の定義とか、歴史認識っていうのはいろんな意見あるかもしれないけれども、撤去してしまうとそういう議論があったというところも知るきっかけもなくなってしまうという意見だったりですとか、別の表現に変えるなどして、公開を継続することは可能ではないかっていうようなそういう意見も出たんですけども。何かそういうところに関してはどうお考えですか。

(並河)

掲示板を一時撤去保管してるから、知ることができないっていうことでは全くない。そもそも今インターネットの時代でですね、この掲示板に何が書いてあったのかということは、すぐにでも見られる状態であります。

ですから、物理的な板一つがあるから研究が進む、進まないっていうのは、全く

この論点が違う部分であって、逆に我々が一時撤去保存したからこそ逆にそこに注目が集まって皆さんがそれについて議論するっていうような状況も、むしろ生まれているというふうに思います。

我々がずっと置いているよりも、群馬の森もそうですけれども、あの議論があればこそ、むしろそこに注目が集まっているっていうのが実態だと思うし、色んな歴史についての研究というのは、掲示板があるからできるとか、できないということでは、これは全くない。学生の皆さんに、私がもしその場にいたとして、お伝えしたいことがあるとするならば、それこそですね、1970年代80年代ぐら
いから、河野談話前後に至るまで、あるいはその河野談話を出した以降についても、この歴史を巡る議論自体がもう相当歴史を経ている状態なんです。それが日韓関係に与えてきた影響も含めて、どういうことなのかということ、やっぱりしっかりと勉強していただきたい。それによって、強制性というふうに言うのか、強制的というふうに言うのか、あるいはその強制連行というような言葉を使うのかっていうのが、どれだけの意味合いを持っているのかっていうことも、これきっちりと勉強しないとですね、そんなに違いがないんじゃないですか、っていうふうになってしまうと思うんですね。

この掲示板の文字についても、きちんとそういうことをもし知っていれば、私が

さっき申し上げたような、ここに書いてある、急に人が入ってきてってような人っていうのは誰なんですか、っていうことがきちんと示されない形でのその証言録っていうところは、これは、それをもってですね、直ちに証言を否定するということではもちろんないんですけども、より深掘りをしてですね、検証をしていかないと、そこから出てくる意義っていうところが全く違ってくるかと、やはりその歴史を研究する上での視点について、ぜひ学んでいただきたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(並河)

どうですか。●●さんご自身、今の私の話を聞かれて、そこはそんなに注目されませんでしたか。

(記者)

そうですね議論があると。もちろん、そういうところも含めて。例えば僕の個人的な意見なんですけれども。例えば長野松代大本営のところ等でですね。書き方

が、強制連行というところから、伝聞調というか、何々だったとされているみたいな形にちょっと表現が変わるみたい。それはそれでなんか、それも批判的な声もあったそうなんですけれども。なかなかやっぱり、さっきもあったように基礎自治体がそこに踏み込んでやるっていうのはハードルがあるっていうことは、もちろんそうだなというふうに思いますし。

例えば、だから何て言うんすかね。朝鮮の方々が、そういう韓国併合とかそういう歴史を経て、日本に働きに来ることがあったと。柳本飛行場の建設にも強制だったかどうかってのは別として、働きに来ていたっていう証言があるというところから、そういう朝鮮人労働者の存在、強制かどうかは別として、そういう方々もこの地で関わったということに関して、市が提示するっていうのは。何ていうんすかね。日韓友好みたいなそういう姉妹都市交流みたいなのも大事にされてると思うんですけれども。そういう中で、その方たちの存在を示すということぐらいなら、市として何かできるんじゃないかなと思うんです。その辺はいかがですか。

(並河)

別に、存在自体を我々が否定しようとかっていうことではなく、ただ私もフィールドワークに参加してですね、研究者の方からそのときのお話を聞いたんです

けども、そのメンバーの中でも、実際には本当にいろんなその渡航の形態があったというお話であったりとか、あるいは、もう今相当に朽ちてきているような建物が、元々の住居跡っていうのがあるんですけども、そこについては、強制性とかっていうことではなかった要素もあるんじゃないかとか、いろんなお話はその時にありました。

だから、ただ今おっしゃったやはり渡航の形態であったり、あるいは、そこにその本人のご意思に強制性とかどう関与してっていうのは、これはもう、やはりこの議論をする上でパッケージになってくると思うんですよね。

だから我々として今、後の質問あるかもしれませんが、その壕の跡が残っているので、それは平和について考える重要な戦争史跡として何とか置いとけないか、保存できないかというようなことも考えているんですけども、そこにおいては現状においては、「旧柳本海軍飛行場跡です。以上」というぐらいの記述かなというふうに思っています。そこからどういった状況だとかっていうのは、これはもう資料を色んなものを見ればですね。皆さんすぐにご存知になる話なので、そこから議論を深めていくというような話ではないかなと思います。

(記者)

今お話もあった飛行場の保存について、今後やっていくというか目指すっていうような方針があるというところですけども。今あったように、市としてはそういう柳本飛行場跡の、例えば防空壕がここにありますよみたいな。そこの紹介にとどまるという今話だったと思うんですけども。例えばそこから何て言うんすかね。朝鮮人労働者がいたかどうかみたいなところまでは。

(並河)

ちょっと言及は、今のところは難しいんじゃないかという話ということです。中途半端な形にどっちもしてもらったという評価を受けるんでしょうね。

ではどういうの経緯であったのか、あるいは強制性についてはどう考えているんだというのは、これはもうパッケージで皆さんがご関心を持たれる部分であります。それについては、だから天理市のホームページに載せている公式見解でも、はっきりと示している通りですね、これは非常に外交上もセンシティブな機微な問題であって、我々としては研究家の検討を待ちたいというところで。

ちょっと質問が飛んじゃったのかもしれませんが。これ私、ぜひお答えしたいなというふうに思っていたのが、今やって一時撤去保存っていうような状態なんで、支柱だけが残っちゃってるということですよ。これは●●さんとしては、どっちかもはっきりさせるタイミングじゃないのか、っていうふうにお考えと

いうことでよろしかったですかね。

(記者)

そうですね今の段階ではなんていうか、国の見解だったり、研究を待つというような状況だと思うんですけれども。一応設置した主体としては、市だということころ、市としての判断もそろそろあってもいいんじゃないかなとか思ったんですけれども、その辺をどうお考えかなと思ひまして。

(並河)

この10年間でですね、議論について収斂されてきたか、ますます多様な意見の間で難しい状況になっているか、どちらだと思われますか？私としてはやっぱり日韓の関係であったりとか、その間に徴用工の問題もありましたし、あるいは先ほど私が言及したような政府のですね、質問趣意書への答弁も、この間に出てるんですよ。ということからすると、ますますその議論としては本当にいろいろな考え方があるなというふうなことが出てきている。より複雑化している状況だというふうに思っています。

そんな中で、私さっきこの歴史を巡る議論っていうのは、単に歴史をどう評価するかということではなくって、現在の我々のあり方の問題でもあるっていうふ

うに思っているんです。そこからすると、皮肉に聞こえるかもしれないですけども、ああいう中途半端な状態に置いとかがざるを得ない支柱そのものが、今の歴史認識を巡る分断であったりとか、あるいはその中で板挟みになって苦悩している自治体の姿を、これは象徴しているものだというふうに思うんです。

ですから、これは我々だけでなく、同様の課題を抱えた自治体の関係者の中で、同じような反応というのはたくさんあると思うんですけれども。率直にですね、平和活動されていて、もっと日本の謝罪のすべき歴史の部分を掘り下げるべきだということにお考えの皆さんもいれば、いわゆる保守的な考えの皆さんもいらっしゃる中で、ぜひその直接的に議論をもっとしていただきたいと。

そこで、結局この掲示板の意義っていうのは何かというと、研究されてきた皆さんからしたら、その自治体のクレジットを公式見解の一つの展示という、小さな町でありますけれども、そこの公式的な見解っていうのを勝ち取ったんだっていうことに、おそらく意義があったんだというふうに思うんです。それが一時撤去、保存という形になったんで、これがせっかくの成果が失われたじゃないかっていうような形で、故にご批判をいただいているんだというふうに思っています。

でも、先ほど申し上げたようにこれを再設置するっていうことは、いろんな指摘がある中で、ここに書いてある文言について、きちんと天理市、天理市教育委員会として、文章あるいは歴史家の批評に耐えられるような確たる証拠であったりとか、見解というのを示せる状況なんですねってことになってくる。

あるいは、これを支柱ごと、完全に撤去するっていう話になってしまうと、それまで研究されてきた皆さんからしたら、これはもう完全に否定してきたんだ。それをもう無くそうととしてるんだと。これはですね、箸を上げても下げても、どちらについても、我々の行動について、いずれかのご意見から批判がこのような状態だと。そういう中に基礎自治体という、その自分たち自身でその外交に責任を持てるわけでもない。あるいはその歴史的検証をするっていうような、その専門性があるわけでもないところが置かれてしまっているっていう難しさ。現代現代におけるこの問題の難しさっていうのを、支柱だけの状態っていうのが、如実に示しているものだというふうに思っています。ゆえに、あの支柱があの状態であるということに、私は現代的な意味があるというふうに思っているんです。支柱も含めて、見て考えてほしいという思いもあるということです。そうです、この歴史認識を巡る問題の難しさというところが、そこに表れている。

(記者)

確かにその通り。その次、本当に最後に一点だけお伺いしたいんですけれども、保存のプランについてフィールドワーク後もう1年ちょっと経ってると思うんですけれども考える会の方はそろそろどうなっているのかちょっとなかなか進んでないんじゃないかっていうような意見も伺ったんですけれども。その辺進捗状況だったりとか今後その考える会の方々との関わり方だったりとか。どういうふうにやっていきたいというか、ゴールっていうのは見えてきてるんでしょうか？そろそろ何か進展だったりとか、そういうところっていうのはどうでしょうか

(並河)

これぜひご理解いただきたいのは、民有地なんです。個人の所有物なんです。だからこれが元々我々の市が持っている土地にある公園の一角だったとかっていう話になったらそうなんですけども。当然、民有地である以上、地権者の方のご理解というのが全ての前提になってくるんで。我々は地元の遺族会の皆さんで仲立ちしてくれる方もいらっしゃったんで、地権者とお話もする中で、寄贈の可能性も含めてだいぶ意思疎通というのは図れてきているんですけれども。ああいう地方の農地なんで。その、公図と地番がそもそもよくあるんです、地番が入

れ替わってるとか。分ります？ 公図上、こっちがこうなってこの人の所有地になってるはずのものが、実際の状況というのがちょっとその公図の状況と違ったりとかっていうのもあって。そこを整理しきった上で、全ての関係する地権者のご理解を得るっていうところが必要になってくるんです。

なので、1年という時間がかかっているように思われるかもしれないんですけども、そこは着実に会話をしている中で、できるだけ早くですね、今だからもしフィールドワークに来られる方があって毎回、地権者にお断りになってるのかわかんないですけども、農道のところからのアクセスもこれまた別の地権者の方の土地な訳ですね。

だから、そのアクセスの部分も含めてちゃんと整理をして、研究に行きたいという方が安心して入っていただけるの状況っていうのは、作りたいなというふう

に思っているし。

その中で、私がどういうふうに感じているかっていうのも、質問の中では書いていましたけども、やっぱり我々が今あそこに行ったらですね、大和ののどかな田園風景っていうのが広がっている状態なわけです。しかし、今は本当にその農村の田園風景みたいなになっている一角についてもですね、かつて戦場の一部に

組み込まれてしまった時代があったんだということについては、やはり我々平和の重要性であったりっていうことを、しっかりと考える場所にしていかなければならないというふうには思っています。

その中で、さらにどのような研究が進んでこられているのかであったりとか、あるいは、掲示板の内容をさらに裏付けるような何かがあったであったりとか、そういうものがあればですね、それは虚心坦懐に教えていただいて、我々ももっと学習をしていきたいなというふうには思っていますけれども。なかなか質問主意書への（※政府の）回答であったりとか、あるいは他の歴史的な認識を示されている方と、会の皆さんの間でまだ認識の差が相当程度あるなというのは、確かなところなんだろうと思っています。

だから我々は誰に与するとか、誰のとかっていうことではなく、やはり客観中立的に対応しなければならないというふうに思っています。その中で一つの見方として、研究が進めておられることについては、これは皮肉でも何でもなく率直に敬意を持っておりますし、勉強をさせていただけたらという状態です。

（記者）

わかりました。すいません、ちょっと時間が押してしまって申し訳ないですけどはい。一応取材これで聞くことができましたので。はい。ちょっとまたもし、何かこれだけはみたいなところがあれば、ちょっと文章で何か回答をお願いすることももしかしたらあるかもしれないんで。

(並河)

非常にこれはですから難しい問題なんですよね。だから、報道特集の以前取材っていうのを受けて私お答えしたんですけども。自治体を、板挟み状態で苦しい状況に置くっていうことではないようにしていただきたいな、というのがもう本当に率直な思いです。

我々としては未来志向で、本当に韓国との姉妹都市との交流っていうのも大切にしていきたいし、子供たちには、その平和であったりとか、国際親善、他国との友好そういったことを本当に大事にしてもらいたいなというふうに思っているんで。決して一部の考え方に組みして、屈して、それによって歴史を修正しようとしているとか、そういう意図ではないということをぜひご理解いただきたいと思います。

(記者)

はい、ありがとうございます。すいません、どうもありがとうございました。

(以上)